

授業名:生体構造特論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
吉田 和樹	一般	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 三年間の柔道整復学を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 チームで働く力 問題解決力 基礎学力	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向け自分の苦手なところを見つける。 ②国家試験に向け自分の理解を高める。 ③						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】一般臨床医学 改定第3版						
【参考書】柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(解剖学・生理学・病理学)						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡		

授業名: 生体機能特論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
吉田 和樹	一般	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 三年間の柔道整復学を総合的に理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向け自分の苦手なところを見つける。 ②国家試験に向け自分の理解を高める。 ③					チームで働く力 問題解決力 基礎学力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】 公衆衛生学 改定第6版						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 専門基礎(解剖学・生理学・公衆衛生学)						
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡		

授業名:柔道Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
長沼 久・國分 義之	一般	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修業は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①初段程度の受身を習得する。 ②投形(手技・腰技・足技)受取を習得する。 ③初段程度の乱取を習得する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	<small>実習試験法(必)必修対象: 期前法後・社会保険制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技Ⅰ(6)中心に解説し、第1回～23回の解説を行う。</small>	立礼・座礼の確認 試験の柔道場への入り方・出方				
2	投技(手技)1	浮落・背負投の習得				
3	投技(手技)2	肩車の習得				
4	投技(腰技)1	浮腰の習得				
5	投技(腰技)2	払腰の習得				
6	投技(腰技)3	釣込腰の習得				
7	投技(足技)1	送足払の習得				
8	投技(足技)2	支釣込足の習得				
9	投技(足技)3	内股の習得				
10	乱取1	受・取での技の習得 1				
11	乱取2	受・取での技の習得 2				
12	乱取3	受・取での技の習得 3				
13	乱取4	受・取での技の習得 4				
14	乱取5	受・取での技の習得 5				
15	これまでのまとめ					
期末試験	期末試験	評価方法	実技試験	80%		0%
			受講態度	20%		0%
【教科書】						
【参考書】講道館柔道 投形 DVD						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】日頃の健康管理を十分に、欠席しないように努める。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

授業名: 関係法規

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
大内 佳奈江	接骨院 3年勤務	大内	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、柔道整復師の受領委任制度、国民医療費など近年着目されている内容についても学習する。					【受講して得られる力】 基礎学力 状況判断力 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。 ②社会保険制度を理解し、その財源や問題点を知る。 ③医療事故の概要について理解し、危機管理という観点を身に着ける。 ④個人情報の保護について理解し、学生の段階から日常生活において意識する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	<small>国家試験法典、必修科目、関係法規、社会保険制度、医療倫理、職業倫理、柔道整復師法を中心に解説し、第1回～12回の解説を行う。</small>		法の意義、体系、柔道整復師と患者の権利 (インフォームド・コンセント、医療事故と医療過誤、リスクマネジメント)			
2	柔道整復師法とその関連内容		総則、免許、柔道整復師国家試験、業務 (教科書①p10～28の内容を読み、要点を理解する。)			
3	柔道整復師法とその関連内容		施術所、広告、罰則、指定登録機関について (教科書①p29～44の内容を読み、要点を理解する。)			
4	柔道整復師法とその関連内容		医療従事者の資格法 (教科書①p47～65の内容を読み、要点を理解する。)			
5	関係法規		医療法(総則、医療提供施設、情報の開示、安全の確保) (教科書①p66～87の内容を読み、要点を理解する。)			
6	関係法規		社会福祉関係法規 (教科書①p88～92の内容を読み、要点を理解する。)			
7	社会保険関係法規		社会保障制度、国民医療費 (教科書②p1～9の内容を読み、要点を理解する。)			
8	社会保険関係法規		健康保険法、国民健康保険法の目的、定義 (教科書①p93～95、②p10～13の内容を読み、要点を理解する。)			
9	社会保険関係法規		後期高齢者医療制度の概要 (教科書①p95～97の内容を読み、要点を理解する。)			
10	社会保険関係法規		介護保険法の概要 (教科書①p97～99、②p6の内容を読み、要点を理解する。)			
11	柔道整復師業務における療養費		療養費制度の概要、支給申請書の記載 (教科書②p19～48の内容を読み、要点を理解する。)			
12	その他の関係法規		個人情報の保護に関する法律 (教科書①p101～104、②p63～65の内容を読み、要点を理解する。)			
13	職業倫理		柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 (教科書②p49～55の内容をもとに、ディスカッションを行う。)			
14	職業倫理		柔道整復師の社会的責任と対応 (教科書②p56～62の内容をもとに、ディスカッションを行う。)			
15	まとめ		これまでの復習			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	0%
				受講態度	10%	0%
【教科書】①関係法規 2019年度版 ②社会保障制度と柔道整復師の職業倫理						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 専門基礎(公衆衛生学)						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(1/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(2/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(3/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(4/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(5/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(6/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:基礎柔道整復学セミナー(7/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた必修対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(1/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(2/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(3/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(4/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(5/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(6/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:臨床柔道整復学セミナー(7/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
学科教員	一般	学科教員	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	講義 7
【授業の概要】 3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験に向けた科目別対策を行う。 ②国家試験に絶対に合格することを目指す。 ③						
【履修上の注意】 欠席せずに、常に自己分析を徹底的に行う。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 国家試験出題の全ての科目の教科書						
【参考書】 柔道整復師国家試験過去問題集						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 国家試験の出題傾向と対策						
【本講義に関しての質問先】			学科教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名:柔道整復実技セミナー(1/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・火 1	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。					前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

授業名:柔道整復実技セミナー(2/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・火 2	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。						
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 柔道整復実技セミナー(3/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・木 4	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。						
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】 柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】 認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名:柔道整復実技セミナー(4/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・金 1	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。						
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名:柔道整復実技セミナー(5/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・金 2	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。						
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関しての質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名:柔道整復実技セミナー(6/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	前期・金 4	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。						
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			

授業名:柔道整復実技セミナー(7/7)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(210)
			【曜日・コマ】	後期・金 2	【授業形態・単位】	演習 7
【授業の概要】 三年間の柔道整復実技および柔道実技をそうごうてきに理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①認定実技審査に向けた整復・固定能力の対策を行う。 ②認定実技審査に向けた柔道の対策を行う。 ③認定実技審査に絶対に合格を目指すことを目標とする。					前に踏み出す力 チームで働く力 目標達成 協調性の向上 忍耐力	
【履修上の注意】 欠席せずに、体調管理に留意し目標を持ち努力する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。					
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	認定実技審査	評価方法	実技試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版 包帯固定学 改定第2版						
【参考書】認定実技審査要領						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

授業名:臨床的判断(画像理解)(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 柔道整復師が関与する運動器の臨床画像(MRI、CT、X-P、超音波)について、基本的撮影方法～医師の読影方法まで理解し、臨床現場での対応力を高める。					【受講して得られる力】 状況判断力 考え抜く力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①各種画像診断装置の名称およびしくみを理解する。 ②各種画像診断装置の撮影方法を理解する。 ③各種画像診断装置の読影方法を理解する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	<small>筆記試験出題:必修第3章・関節法第2・包膜関節第2・骨格第2章・骨格第2章・骨格第2章(を中心に解説し、第1回～23回の解説を行う。)</small>		MRI、CT、X-P、超音波画像の特長と違いについて学ぶ。				
2	各種画像診断装置の注意点		装置および画像の取り扱いについて注意点を学ぶ。				
3	各種画像診断装置の撮影と読影方法①		MRIの撮影および読影方法について学ぶ。				
4	各種画像診断装置の撮影と読影方法②		CTの撮影および読影方法について学ぶ。				
5	各種画像診断装置の撮影と読影方法③		X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。				
6	各種画像診断装置の撮影と読影方法④		X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。				
7	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑤		X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。				
8	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑥		超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。				
9	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑦		超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。				
10	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑧		超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。				
11	臨床画像判断①		MRI画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。				
12	臨床画像判断①		CT画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。				
13	臨床画像判断①		X-P画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。				
14	臨床画像判断①		超音波画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。				
15	総まとめ		復習				
期末試験	レポート提出		評価方法	レポート	80%	受講態度	20%
					0%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改訂第2版、柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床実習Ⅲ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	前期・水 2	【授業形態・単位】	実習 2	
【授業の概要】 臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ ③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ					状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8			国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	レポート提出		評価方法	レポート 80% 受講態度 0%	受講態度	20% 0%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改訂第2版、柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床実習Ⅲ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	3	
國分 義之	病院3年勤務 接骨院開業 30年経験	國分	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	後期・水 4	【授業形態・単位】	実習 2	
【授業の概要】 柔道整復師の三年間の集大成で、国家試験合格後に社会に出て直ぐに役立つ知識と技術を身につける。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①患者さんの訴えを導き出す。 ②自分の中のフロチャートで、結果を導く出す。 ③結果を元にどのような治療方針を立てるか。					前に踏み出す力 考え抜く力 状況判断力 コミュニケーション力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8			国家試験過去問(必修対策・関係法規・社会保障制度・医療倫理・職業倫理・柔道整復実技)を中心に解説し、第1回～28回の解説を行う。				
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	実習日誌		評価方法	実習評価 受講態度	80% 30%	0% 0%	
【教科書】養成課程三年間に使用した教科書							
【参考書】種々文献							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関しての質問先】			担任	【質問方法】			教員室にて